



衆議院予算委員会で木村弥生衆議院議員が質問

2月27日の衆議院予算委員会で、木村弥生議員が、次のような質問をしました。

<これからの医療について>

①NP（ナース・プラクティショナー）に関する質問

欧米諸国で成果をあげている NP 制度を参考に、日本でも大学院修士課程で NP の教育が行われています。しかし、現行医療法のもとでは修了生たちの活動の範囲は限定されています。また、平成 26 年には看護師の特定研修制度がスタート。このような流れを受け、平成 29 年の「新たな医療のあり方を踏まえた医師・看護師等の働き方ビジョン検討会」の報告書では「特定行為研修制度の対象となる医行為」を拡大し、診療看護師（仮称）の養成が必要と明記されました。今後、チーム医療におけるタスクシフティング、タスクシェアリングの議論が始まりますが、木村議員は、この議論の中で NP に関する検討を求めました。また、チーム医療の中で看護職の力をどのように活用していくのか質問しました。

根本匠厚生労働大臣は「チーム医療におけるタスクシフティング、タスクシェアリングでは、看護師が重要な役割を果たすと認識している。NP に関する提言に対しては、特定行為研修制度の推進が重要と考えている。今後制度を見直し、在宅や手術後の患者に対し一連の医療行為が可能になれば、この制度が促進されると考える」と答えました。

②歯科衛生士の人材不足対策

歯科健診・口腔ケアは、全身の健康にもつながるため、木村議員は一層の充実を求めました。また、歯科衛生士の不足に対して、キャリアパスの明示化などの方策が必要ではないかと質問しました。

<児童虐待防止対策に関して>

平成 13 年の DV 防止法の施行から、DV 事案の件数は毎年増加し続けている一方、婦人相談所の一時保護数は減少傾向にあります。公的シェルターには利用しにくい点があり見直しが必要ではないか、また運営が困難な民間のシェルターへの支援策を考えてほしいと、木村議員は訴えました。児童虐待の原因の一つに望

まない妊娠があげられますが、これに関連して、緊急避妊薬の OTC 化等について質問しました。さらに、子どもと接する職業については、イギリスの性犯罪歴に関する DBS チェックのような仕組みの検討を求めました。



健やか女性活躍フォーラム - Begin toward -

3月3日「女性の健康週間」特別企画として「健やか女性活躍フォーラム - Begin toward -」（厚生労働省主催）が東京大学鉄門記念講堂（東京都文京区）で開催されました。

はじめに、たかがい恵美子厚生労働副大臣（参議院議員）が挨拶。たかがい副大臣は「これからの時代に女性たちが活躍していくために、自分でできることもあるけれど、周りに助けてもらえらるともっと動きやすいと多くの女性が感じています。今日は、専門家の先生方のお話を聴いて、明日から何に取り組んでいけばよいか、考えるきっかけにさせていただければと思います」と述べました。

このあと、国立成育医療センターの荒田尚子母性内科診療部長が「人生 100 年時代の女性の健康戦略」と題して基調講演。つづいて、団体等の取組発表として、①保険者機能を推進する会・女性の健康研究会リーダーの高橋恵子さん、②宮城県保健福祉部健康推進課の赤坂明美さん、③日本看護協会常任理事の熊谷雅美さんが講演を行いました。

パネルディカッション「～これからの女性の健康支援～」では、女性医療ネットワーク理事長の対馬ルリ子さん、ワコール健康保険組合健康開発チーム課長の須山有輝子さん、ベアーズ副社長の高橋ゆきさん、順天堂大学医学部講師の齋田良知さんがパネラーとして、それぞれの取り組みを発表し、このあと、会場からの質問、意見にパネラーの方々が回答しました。



注文をまちがえる料理店 at 厚生労働省

3月4・5日、厚生労働省で「注文をまちがえる料理店」が期間限定オープンしました。注文をまちがえる料理店のホール・スタッフは認知症の方々。56歳から91歳まで、21人の認知症の方がお客さんにサービスを提供しました。

「注文をまちがえる料理店」の和田行男代表理事は「認知症の方々が暮らしやすい街づくりのひとつとして取り組んでいます。ときどき間違えても、まっいいか、という寛容な気持ちでスタッフに接していただければと思います」と挨拶。

3月4日のディナータイムには、根本匠厚生労働大臣、石田まさひろ参議院厚生労働委員長（参議院議員）、小泉進次郎自民党厚生労働部会長（衆議院議員）も来店しました。